

土壤消毒剤

イキイキ ビチビチ
元気な野菜つくりには

ソイリーン®

毒性：劇物 消防法：危険物第4類 第2石油類
ソイリーン®は(株)エス・ディー・エス・バイオテックの登録商標です

トリプル効果!
線虫・病害・雑草を
シャットアウト

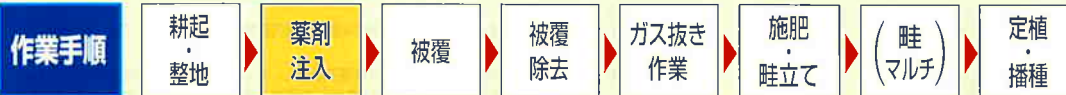
効果的に製剤化されたクロルピクリンとD-Dが土壤中でガス化し、隅々まで拡散浸透し、効果を示します。

**刺激臭が少なく、
使いやすい**

クロルピクリンの刺激臭が少なく、露地だけでなく、施設内でも使えます。

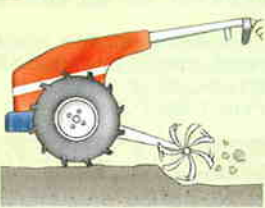


有効成分：クロルピクリン…41.5% [PRTR: 1種214]
1,3-ジクロロプロペン(D-D)…54.5% [PRTR: 1種137]
包装：150(缶)×1



上手な使い方 1 圃場の準備 2 注入

畑に残っている茎葉や根など(特に病気や線虫におかされたものは、できる限り取り除いてください。畑はなるべく深く耕し、整地してください。



注入は30cm間隔のチドリ状で、深さ約15cmに所定量を注入します。



3 被覆(消毒)

注入後直ちにポリエチレンシートなどで地表面を被覆してください。10日~15日程度そのまま放置します。地温が低い場合は期間をさらに長くしてください。



4 被覆(除去) 5 移植(播種)

作付けの1~2日前に畑を耕起してガス抜きを行ってください。地温が低い場合は作付けまでの期間をさらに長くしてください。



- (1) ガスが抜けたあとで植付けますが、念のため植付けの前に畑の2~3カ所を掘って、薬剤の臭いがしないことを確認してください。
- (2) もし、臭いが残っている場合は、さらに放置してから植付けてください。



6 消毒後の注意

- ソイリーンで消毒した畑には、他からセンチュウ・病原菌などを持込まないようにすることが大切です。
- (1) 汚染土で使った農機具などはよく洗い、病原菌をつけたまま畑に持込まないようにしてください。
 - (2) 降雨などで病原菌が他から流れこまないように注意し、また、畑の排水をよくしてください。
 - (3) 苗(種)は、無病で健全なものを移植(播種)してください。



適用病害虫・雑草

(平成19年5月23日付拡大登録内容を含む)

作物名	適用病害虫および使用量	適用雑草 および使用量
にんじん	しみ腐病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
すいか	つる割病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	黒点根腐病	
メロン	えそ斑点病 つる割病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
だいこん	バーティシウム黒点病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	黄化病	
はくさい	根くびれ病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
キャベツ	苗立枯病(リソクニア菌)	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	青枯病	
なす	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	青枯病	
トマト ミニトマト	青枯病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	萎凋病	
ほうれんそう	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	つる割病	
きゅうり	青枯病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
ピーマン とうからし類	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	根茎腐敗病	
かぼちゃ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	立枯病	
しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	根茎腐敗病	
葉しょうが	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	白絹病	
ねぎ	白絹病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
みょうが(花穂・莖葉) にがうり	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
オクラ	苗立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
やまのいも	根腐病	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	褐色腐敗病	
ごぼう	黒あざ病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
ざといも	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	根腐病	
こんにゃく	そうか病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	青枯病	
ばれいしょ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	萎凋病	
いちご	炭疽病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	立枯病	
かんしょ	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	半身萎凋病	
きく	萎凋病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
ストック	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	球根細菌病	
チューリップ	萎凋細菌病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
カーネーション	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	根腐病	
トルコギキョウ	立枯病	30ℓ/10a (1穴あたり3ml)
	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	
花き類・観葉植物 (ストック、チューリップ、 きく、カーネーション、 トルコギキョウを除く)	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	萎凋病	
セルリー	ネグサレセンチュウ ネコブセンチュウ	20~30ℓ/10a (1穴あたり2~3ml)
	立枯病	
たばこ	立枯病	(畦内土壌注入) 1穴あたり2~3ml

畑地
一年生雑草
20~30ℓ/10a
(1穴あたり
2~3ml)

＜使用方法＞

- 本剤の使用時期:作付けの10~15日前【注:たばこに関しては作付けの30日前とする。】
- 本剤の使用回数:1回 ●D-Dを含む農業の総使用回数:1回
- クロロピクリンを含む農業の総使用回数2回以内(床土1回以内、圃場1回以内):キャベツ、すいか、トマト、ミニトマト、ピーマン、とうからし類、ねぎ、きく、カーネーション、トルコギキョウ、セルリー
- 本剤の使用法:耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。【注:たばこに関しては(畦内土壌注入)畦立後、畦中央の頂上から、30cm間隔で、35cmの深さに所定量を注入し、直ちに注入口をふさぎ、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。】

■使用上の注意

- (1)生育中の作物には葉害を生ずるおそれがあるので、使用しないこと。
- (2)温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時使用すること。
- (3)本剤の処理に当たっては、ガスが土中で十分に拡散するように耕起、砕土を十分行い、丁寧に整地してから処理すること。但し、耕起直後ではガスが抜けやすいので、耕起後しばらくたって土壌がおちついてから処理することが望ましい。また、土中でのガスの拡散は土の湿り気のある時、すなわち土を握って放すと割れ目ができる程度の時に注入するのが最適である。注入後は直ちに穴をふさぎ、地表面をポリエチレン、ビニール等で被覆すること。
- (4)処理は原則として作付の10~15日前に行い、作付の1~2日前に畑を耕起して十分にガス抜きをすること。ガス抜きが不十分な場合は、葉害を生ずるおそれがあるので注意すること。うり類は葉害を生じやすい傾向にあるので、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (5)処理後、大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行うこと。
- (6)処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意すること。
- (7)消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有害な物質を作り、葉害の発生をおそれるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用すること。
- (8)他剤と混用しないこと。特にカーバム剤及びカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険であるので、カーバム剤及びカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いること。
- (9)金属腐食性があるので、使用後の注入器具その他は灯油でよく洗うこと。
- (10)薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがあるので、製品缶には水を入れないこと。
- (11)土壌消毒機(ポリタンク等)に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがあるので、残存薬液は製品缶には戻さず、使い切る。
- (12)処理後の放置期間と効果、葉害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らぬように注意すること。特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (13)適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

■安全使用上の注意



- (1)医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤は窒息性有毒ガスを発生するので、揮散したガスを吸い込まないよう注意すること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、通風の良好な場所で顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やしながらかんたんに安静にし、直ちに医師の手当を受けること。場合によっては、酸素吸入又は人工呼吸を行い、強心剤等を投与する。
- (2)本剤は催涙性の刺激を有し、眼、のど、鼻を刺激するので注意すること。ガスが眼に入りひどく痛む時は、多量の水でよく洗い速やかに眼科医の手当を受けること。
- (3)本剤は皮膚に対して強い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- (4)本剤の投薬作業の際は、吸引缶(活性炭入り)付き防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣等を着用すること。ガス抜き作業の際も同様の防護マスク、保護眼鏡を着用すること。作業の際はガスを吸い込まないよう風向き等を十分考慮すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5)本剤が衣服等に付いた場合には、脱衣して他のものとは分けてよく洗濯し、本剤の臭気が抜けるまで身に付けないこと。
- (6)かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- (7)作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意すること。
- (8)揮散ガスによる被害を防止するため、本剤の処理は朝夕の気温の低い時間帯に行うこと。処理後は直ちに、必ずビニール等で被覆を行うこと。
- (9)住宅、畜舎、鶏舎周辺での使用に当たっては、以下の事項に留意し、ガスによる被害の発生防止に十分配慮すること。①高温期の処理を避け、気温の低い季節に処理するのが望ましい。②住宅、畜舎、鶏舎が風下になる場合、処理を控えること。③被覆資材は厚めのもの(0.03mm以上)を使用すること。④風の強さや向きが変わり、被害を及ぼす恐れがある場合は、ガス抜き作業を中断すること。
- (10)本剤をビニールハウス等の施設内で使用する場合は、出入口、天窓、側窓等を閉鎖して作業を行うこと。作業後は直ちに密閉し、臭気が残っている期間にはハウス内へ入らないこと。くん蒸後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- (11)本剤を使用する場合、注入処理と同時に被覆する機能を備えた土壌消毒機を使用することが望ましい。
- (12)本剤は水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域及び養殖池に本剤が飛散、流入する恐れのある場所では使用しないこと。
- (13)散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、周囲に影響のない地点を選定して、土壌中に処理を行い、容器等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (14)危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。
- (15)農業保管庫(箱)に入れ、カギをかけて保管してください。

ソイリーンの空缶処理のお願い

ソイリーンの空缶処理は次の手順できちんと行ってください。

- (1)口栓ははずし、逆さにして薬液を土中にしみ込ませ、缶を空にしてください。(1日~2日で缶の残液はなくなり、ほぼ1ヶ月で臭気は抜けます)
- (2)缶の底面に3~4ヶ所の孔を開ければ、より早く臭気はなくなります。
- (3)周囲に影響がない場所に、缶を横倒しにして、置いて下さい。この時風で転がらないように、2~3缶を図のようにロープ等で束ねます。

※完全に臭気なくなったのを確かめてから、処分してください。



※本製品は農業用土壌消毒剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。本印刷物は2008年1月現在の資料、情報、データに基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。